

## 主 題：キリストを愛し続けた人 — パウロ（2）

聖書箇所：使徒の働き 26章18－23節

私たちはパウロについて前回から学びをしています。パウロ、彼こそ主の命令、みこころに対していのちがけで従い通した私たちの信仰の先輩です。19－20節を見ると「**こういうわけで、アグリッパ王よ、私は、この天からの啓示にそむかず、20 ダマスコにいる人々をはじめエルサレムにいる人々に、またユダヤの全地方に、さらに異邦人にまで、悔い改めて神に立ち返り、悔い改めにふさわしい行ないをするようにと宣べ伝えて来たのです。**」、このように証をしています。パウロは「**天からの啓示**」、神の命令に聞き従う者になりました。神の命令に忠実に従って行こうと、そのような決心をしたのです。その二つの理由（なぜ、パウロは主に忠実にしたかったのか）を前回見ました。一つ目は、それが神が望んでおられることだと知っていたからです。神の教えと命令に忠実に従うことこそ神が私たち信仰者に望んでおられることであり、神が喜ばれることであると。二つ目に学んだことは、パウロ自身の神への深い愛がそのような忠実な歩みを生み出したということでした。いのちをかけて愛してくださったその主の愛を覚えるとき、この方に対する愛が成長します。愛が大きくなります。この方をもっと喜ばせたいという願いが出てきます。それがパウロが主に対して忠実に歩み続けた理由です。

今朝はそれから少し進んで、パウロ自身がいのちがけで語った神からのメッセージ、どのようなことを彼は語ったのか、この大切なメッセージの内容について見て行きます。私たちは「福音」と言います。このメッセージこそ私たちにとって最も大切なメッセージです。というのは、人の永遠がかかっているからです。このメッセージが大切だからそれは様々な攻撃を受けて来ました。福音を曲げようとする、そのような働きが繰り返えされて来たのです。パウロはガラテヤ人への手紙の中で、人々が別の福音に移って行くと言っています。また、パウロはその2章でペテロたちが福音の真理に真っすぐに歩んでいないことを非難しています。それほど真理を惑わす動きというものがあるのです。別の福音などと聞くとそれはいったいどのようなものだったのか、どのようなことに人々は惑わされていたのかと考えますが、実はそれは今から約2000年前のそのときだけの問題ではなかったということです。というのは、今の私たちもそのような間違った教えに惑わされることがあるのです。たとえば、ある人たちは特定の行ないによって救われるとしています。行ないによる救いです。私はこのようなことをしたから救われているに違いないと…。私たち日本人はよく言います。バプテスマを受けることによって救われると。しかし、聖書はそのようなことは教えていません。また、ある人はこう言います。熱心さによって救われると。たとえば、朝こんなに早く起きて祈っているから、これだけ集会に出席しているから、これだけ熱心に誠実に、そして、献身的に伝道し奉仕しているから救われるに違いない、このような熱心さがきっと私を救って天国に入れてくれるにちがいないと。そのように信じている人たちが現実にはいます。しかし、みことばを見ると、どんなに神に対して熱心であっても救われていない可能性があるのです。

パウロは自分自身のことをこのように証しています。使徒22：3「**私はキリキヤのタルソで生まれたユダヤ人ですが、この町で育てられ、ガマリエルのもとで私たちの先祖の律法について厳格な教育を受け、今日の皆さんと同じように、神に対して熱心な者でした。**」と、これは救われる前の自分のことをこのように言っているのです。また、パウロはイスラエルについてこのように言っています。ローマ10：2「**私は、彼らが神に対して熱心であることをあかしします。**」、イスラエルの人々も神の律法を熱心に守り行なうて行こうとやって来た、しかし、パウロは続けて言います。「**しかし、その熱心は知識に基づくものではありません。**」と。つまり、パウロは自分も熱心だったけれど、ユダヤ人たちも確かに熱心だった、しかし、彼らの熱心さはみことばに基いていない、神の教える義について正しい認識がない、この「正しい認識」がここで「知識」と言われていることばです。分かっていないということです。彼らは自分たちなりに一生懸命やっているけれど、神が何を教えておられるのか分かっていない、だから、どんなに熱心に労してもそれは空しいということです。これは自分自身の経験をもとにパウロがこのように語ったのです。どんなに立派な行ないでも行ないは人を救いません。ある人はたくさんの聖書の知識をもっているかもしれませんが、どれほどみことばを知っていても救われていない可能性があります。私自身も見てきたし聞いてきたことは、聖書学校や神学校に入って初めてイエスを信じる人たちがいるという現実です。信じていると思っていたけれど実はそうではなかったと。説教者のプリンスと呼ばれた19世紀最高の説教者であるチャールズ・スボルジョンはこのように言っています。彼は自分が牧会していた教会の人々に関して「この群の60%は救われていない」と。衝撃的です。スボルジョンのように神のみことばを忠実に語り続けた牧師がそのように言うのです。4割位の人しか救われていないだろうと。では、私たちはどうすればいいのでしょうか？私たちがすることは神のみことばにしっかり立つことです。自分

はこう思うとか、だれかがこう言ったのではなく、神がこのように言われたと聖書に確信を置くことが大切なのです。神が言われた、私たちはそれを信じると。だから、私たちはみことばが教えていることを正しく学んで行くことが必要なのです。スポルジョンはまたこのようにも言います。「教会に通う大多数の人々は全く考えることをせず、まどろみながら未知の神の崇拝者であると私は信じる」と。教会に通っている大多数の人たちは座ってみことばを聞いていても何も考えていない、まどろんでいる、そして、自分の知らない神を崇拝していると言います。こんなことがあってはならないのです。だから、パウロがⅡコリント13：5で教えるように「**あなたがたは、信仰に立っているかどうか、自分自身をためし、また吟味しなさい。…**」と、私たちは自らの信仰をきちんと吟味することが必要なのです。

では、パウロがいのちがけで語った神からのメッセージ、人をその罪から救い出し、新しく生まれ変わらせることのできる希望の救いのメッセージ、本当の福音について聖書が何とっているのか見て行きましょう。

## ☆パウロがいのちがけで語ったメッセージとは？

使徒の働き26章を見てください。20節「**ダマスコにいる人々をはじめエルサレムにいる人々に、またユダヤの全地方に、さらに異邦人にまで、**」と、つまり、あらゆる国の人々にパウロは何を語ったのでしょうか？その後を見てください。「**悔い改めて神に立ち返り、悔い改めにふさわしい行ないをするようにと宣べ伝えて来たのです。**」と、このように私は語り続けてきた、これが私のメッセージであると教えるのです。使徒の働き20：21を見てください。ここでもパウロは自分が語って来たメッセージについてこのように教えています。「**ユダヤ人にもギリシヤ人にも、神に対する悔い改めと、私たちの主イエスに対する信仰とをはっきりと主張したのです。**」、同じように、すべての人々にこのように語り続けて来たと言います。その後、「**22** いま私は、心を縛られて、エルサレムに上る途中です。そこで私にどんなことが起こるのかわかりません。**20:23** ただわかっているのは、聖霊がどの町でも私にはっきりとあかしされて、なわめと苦しみが私を待っているとされることです。」と、つまり、パウロはこれから私はエルサレムに上って行くけれど、いろいろな困難が私を待っていると、そのことを話した後、24節「**けれども、私が自分の走るべき行程を走り尽くし、主イエスから受けた、神の恵みの福音をあかしする任務を果たし終えることができるなら、私のいのちは少しも惜しいとは思いません。**」、ここで見ていただきたいことは「**主イエスから受けた、神の恵みの福音をあかしする任務を**」と言っていることです。パウロはここで「**どんなことが起ころうとも、神からいただいた神の恵みの福音を人々に伝えるというその任務を果たし終えることができるなら死んでも構わない**」と言うのです。つまり、彼はいのちがけで神の恵みの福音を語ろうとしたのです。

では、その神の恵みの福音とはどのようなメッセージでしょう？それは私たちがすでに見て来たように、「神に対する悔い改め」と私たちの「主イエスに対する信仰」とをはっきり主張したことです。パウロのメッセージは人々に悔い改めを命じるメッセージでした。罪を悔い改めてイエスを信じ受け入れるようにと。私たちにとって必要なことは、これまで聞いてきたことを横に置いて、神の言われることに耳を傾けることです。そのことを今私たちはパウロの証言として見たのです。だから、私たちが調べて行かなければいけないことは、そのメッセージがどういう内容だったのか、どういうことをパウロは言わんとしたのかです。

### 1. 罪を悔い改めること

悔い改めて神に立ち返りなさいと言ったパウロ、「悔い改める」とは「心を変える」ということです。向きを変える、歩んできた方向と別の方向に歩み出すということです。パウロはダマスコに向かっていました。何のために？そのときのことは使徒の働き9章にルカが詳しく記しています(9：1－22)。彼はダマスコの諸教会宛の手紙をもって、クリスチャンを迫害するためにそこへ向かっていたのです。ところが、その途中でパウロは復活したイエス・キリストに出会うのです。クリスチャンを迫害しようとしたパウロがそのときからイエス・キリストを宣べ伝える者へと変えられたのです。神に逆らっていた者が神に従う者へと変えられたのです。このように悔い改めというのは心を変えることであり、そして、向きを変えることです。もう一つの例があります。テサロニケの教会に対してパウロが教えたことを見てください。Ⅰテサロニケ1：9「**私たちがどのようにあなたがたに受け入れられたか、また、あなたがたがどのように偶像から神に立ち返って、生けるまことの神に仕えるようになり、**」と、テサロニケのクリスチャンたちはかつて偶像に仕えていた、その人々が今度は真の神に仕える者へと変えられたと言います。方向が変わったのです。歩んで行く向きが変わったのです。かつては偶像に仕えていたけれど、それが間違っていることに気付いて正しい真の神に仕えるようになったと。ですから、悔い改めとは考えを変える以上のことです。なぜなら、聖書に記されている神によって救われた人に共通していることは、彼らの生き方が変わったからです。なぜ、生き方が変わるのでしょうか？心が変わるからです。心が変わり、態度が変わり、興味が変わり、関心が変わり、目的も夢も変わるのです。

悔い改め、心を変えなさい、これまでの間違った生き方を止めて正しい方向を向いて正しく歩み始め

なさいと言うのです。では、なぜ、私たち人間に悔い改めが必要なのでしょう？

### ○悔い改めが必要な理由

使徒26：18に二つの理由を見ることができます。「それは彼らの目を開いて、暗やみから光に、サタンの支配から神に立ち返らせ、わたしを信じる信仰によって、彼らに罪の赦しを得させ、聖なるものとされた人々の中であって御国を受け継がせるためである。』」

#### 1) 人間は生まれながらに罪を愛する者だから

神よりも罪を愛する者、暗闇を愛しているのです。ヨハネ3：19－20「そのさばきというのは、こうである。光が世に来ているのに、人々は光よりもやみを愛した。その行ないが悪かったからである。：20 悪いことをする者は光を憎み、その行ないが明るみに出されることを恐れて、光のほうに来ない。」、光、すなわち、神が世に来ているのに人々はその神を愛することよりも闇、すなわち、罪を愛したと言うのです。人間は罪の思いのままに生きてきたかったのです。だから、神を拒んで罪の中に生きる道を選択したのです。人間は罪を愛し続けていると言います。確かに、私たちは自分の思い通りに、心の望む通りに生きていきたいという願いがあります。しかも、それはだれにも邪魔されたくないのです。なぜ、人間は創造主を信じたくないのでしょうか？それは創造主を信じることによって自分の好きなように生きられなくなることを知っているからです。信じたら自分がこれまでにして来たこと、自分がしたいこと、好きなことができなくなり自由がなくなってしまう、だから、信じたくないのです。放っておいてほしいのです。私の人生は私が好きなように生きていきたいとして、罪が赦されることよりも罪の中を歩み続けることを選択しているのです。だから、罪を悔い改めることも神が備えてくださった救いをも拒み続けるのです。人間は本質的に罪を愛する者だと言います。

#### 2) 人間は生まれながらにサタンのしもべだから

人間は神ではなくサタンに従っている、「サタンの支配」と記しています。エペソ2：2－3を見てください。「そのころは、それらの罪の中であってこの世の流れに従い、空中の権威を持つ支配者として今も不従順の子らの中に働いている霊に従って、歩んでいました。：3 私たちもみな、かつては不従順の子らの中であって、自分の肉の欲の中に生き、肉と心の望むままを行ない、ほかの人たちと同じように、生まれながら御怒りを受けるべき子らでした。」、生まれながらの人間は皆サタンのしもべであると言います。サタンのしもべの特徴はこの箇所に戻り返されています。「不従順」です。神に対して不従順だと言います。なぜなら、主人であるサタンが神に対して不従順だからです。サタンは常に神に逆らうものです。ですから、その特徴を見事に受け継いでいるのです。3節に「自分の肉の欲の中に生き、肉と心の望むままを行ない」とあります。つまり、自分の快樂の趣くままに好き放題を行なって行くと言うのです。神が何を望まれているか、何を喜ばれるか、神の前に何が間違っているか、そんなことはどうでもいいのです。これこそ神に対する不従順です。聖く正しい神が私たち人間に命じておられることは、創造主なる神を愛し、神に倣って聖く正しく生きて行くことです。しかし、サタンのしもべたちは生まれながらに神に逆らい神のみこころに背いた生き方をしているのです。しかも、その生き方をこの瞬間でも止めようとしません。だから、神の怒りを受けて当然であり、さばかれて当然なのです。パウロはそのような人たちに関して見事に表現しています。ピリピ3：18－19「というのは、私はしばしばあなたがたに言って来たし、今も涙をもって言うのですが、多くの人々がキリストの十字架の敵として歩んでいるからです。」、パウロは言います。たくさんの人々がキリストの十字架の敵として生きています。あなたはそうに思っていないかもしれませんが、でも、パウロは続けて言います。「：19 彼らの最後は滅びです。彼らの神は彼らの欲望であり、彼らの栄光は彼ら自身の恥なのです。彼らの思いは地上のことだけです。」、つまり、十字架の敵として生きている人は、自分の欲望を自分の神としていると言うのです。自分の欲望を愛し崇拝しているのです。彼らが栄光と思うことは神の前に恥ずかしいことだと。彼らの特徴はこの地上のことしか考えていないということです。今さえ良ければいい、今日さえ楽しければ…と。だから、神は言われます。「彼らの最後は滅びです」と、なぜなら、彼らは神に逆らっている、不従順だから、創造主なる神のことを全く無視して好き勝手に生きているからです。

皆さん、聖書はこのように教えます。人間は自分の行為に対して責任があると。少し考えてみてください。神はこうして今日もあなたをこの教会へと導いてくださった、あなたはみことばを通して神があなたを愛し罪の赦しを与えようとしてくださっていることを聞いて、そのことを知っています。しかし、あなたはそれでもこの神の前に自分の罪を悔い改めて救い主を受け入れようとしていません。あなたは神がご自分のいのちをもって備えてくださった救いを、自らの意志をもって拒み続けている、その選択に対してその行為に対してあなたに責任があるのです。神があなたの罪に対して有罪の判決を下され、永遠の地獄を宣告されるとき、あなたはだれのせいにもすることはできません。それは救い主が忍耐をもって提供し続けてくださっている罪の赦しを知りながら、あなたは自らの意志でそれを拒み続けたからです。神の恵みを拒み続けるというのはあなたの意志です。そして、それには必ず結果が伴いま

す。神が繰り返し警告しておられることは、あなたを赦すけれどあなたがそれを拒んでいるなら赦しはないということです。だから、私たちは何を人々に語らなければならないか、このように神に逆らい続けている人々、罪を愛してサタンのしもべとして生きている人々、神を無視して歩んでいる人々に対して私たちが語るべきメッセージは、パウロが教えたように、また、パウロ自身が語ったように、その罪を悔い改めなさい、その罪から離れなさい、そのような神の前に間違った生き方を止めなさいということです。もう一度、使徒26：18を見てください。「**暗やみから光に、サタンの支配から神に立ち返らせ**」と、方向を転換しなさい、悔い改めて間違った生き方を止めて正しい生き方をしなさい、罪の中から神のところに行きなさい、サタンのしもべから神のしもべへと変えられるように、今の罪の生き方を止めて神に立ち返りなさいと、そのように命じ勧めなさいと言うのです。それがパウロが教え、また、語り続けてメッセージなのです。これがパウロが言う「恵みの福音」なのです。スポルジョンはこう言っています。「悔い改めとは罪を憎悪することです。罪からの方向転換です。神の力を受けて罪を放棄するための決断力だ」と。神に逆らい背き続けて来たその罪の生き方を止めることなのです。

## 2. イエスを信じ受け入れること

26：18に「**わたしを信じる信仰によって**」とあります。パウロは罪から離れなさい、罪に背を向けなさい、罪から立ち返りなさい、間違った方向に対してもうこれまでとし、正しい方向を向いて歩む、それは「**わたしを信じる信仰によって**」できると言うのです。これが救いを得る唯一の方法であること、つまり、私たち人間が救われるためにこれ以外の方法はないということです。私たちの罪が赦されるために神が備えてくださった救いの方法は「**わたしを信じる信仰**」だけなのです。では、「**わたしを信じる信仰**」とは何なのでしょう？そのことを見る必要があります。ご存じのようにこの「**わたし**」とはイエス・キリストであることは明らかです。では、イエス・キリストについて何を信じるのでしょうか？イエスがいったいだれであったかということです。イエスはメシヤである、救世主であるということ、そのことを認めることです。この26：9-18を見たとき、先ほど9章でパウロが救われたことを話しましたが、この箇所にもそれを見ることができます。そして、18節で「**わたしを信じる信仰によって、彼らに罪の赦しを得させ**」ると言います。つまり、このイエスは信じる人たちに罪の赦しを与えることができる救世主だと言うのです。そうでなければ、パウロはそのようには言えなかったはずです。イエスを信じる信仰によって罪の赦しを得ることができる、罪の赦しをもたらす方、救世主です。使徒9章を見てみましょう。パウロは初め自分に語りかけた人がだれか分かりませんでした。4節「**彼は地に倒れて、「サウロ、サウロ。なぜわたしを迫害するのか。」という声を聞いた。**」と、そのときパウロは、5節「**彼が、「主よ。あなたはどなたですか。」**」と言うと、**お答えがあった。「わたしは、あなたが迫害しているイエスである。」**と答えを聞きました。パウロは分かっていたいなかったけれど、自分にこうして語りかけている人が普通の人ではないということは分かっていたのです。ですから、パウロは「**主よ**」ということばを使いました。ところが、その後、パウロはその人、つまり、イエスがだれなのかということを知らされて行くのです。というのは、20節を見てください。「**そしてただちに、諸会堂で、イエスは神の子であると宣べ伝え始めた。**」と、パウロはこのイエス・キリストこそ神だと語り出したのです。そして、22節「**しかしサウロはますます力を増し、イエスがキリストであることを証明して、ダマスコに住むユダヤ人たちをうろたえさせた。**」と、このときパウロはまだ「**サウロ**」と呼ばれていましたが、パウロはイエスがキリスト、救世主、メシヤであると語ったのです。ですから、このような体験をした後パウロはイエスが救世主であるという確信を得たのです。そして、そのことを人々に語り始めたのです。

もう一度、26章に戻ってください。パウロは23節でイエスが救世主であることの証拠を二つ上げています。「**すなわち、キリストは苦しみを受けること、また、死者の中からの復活によって、この民と異邦人ともに最初に光を宣べ伝える、ということです。**」、「**キリストは苦しみを受けること**」と十字架のことを話し、「**死者の中からの復活**」と復活のことを話しています。パウロはそのことを引き合いに出して、十字架に架かり、そして、約束どおり死後三日後によみがえってきた、このことをもってイエス・キリストはご自分が真に預言されていた救世主であることを明らかにしたと言うのです。なぜなら、イエスが死んでそのままだったら罪の赦しは完成しませんでした。しかし、イエス・キリストが死からよみがえってきたことによって明らかにされたことは、このイエス・キリストを信じる者はすべて罪が赦されるということです。ローマ4：25「**主イエスは、私たちの罪のために死に渡され、私たちが義と認められるために、よみがえられたからです。**」、イエス・キリストの復活はキリストが救世主であること、キリストによって信じるすべての人の罪が完全に永遠に赦されることを証明したもののなのです。だから、パウロはこのようなことをもって、このイエス・キリストは救世主であること、イエスはキリストであることを明らかにしたのです。26：18「**わたしを信じる信仰によって**」と、つまり、イエスが救世主であるということを感じる信仰によって救われると言ったのです。

もう少し見てみましょう。この「**信じる信仰**」とはどういう意味でしょうか？だれを信じるかは分かった、

何を信じるかも分かった、では、この「**信じる信仰**」とはいったいどういう意味でパウロは言っているのでしょうか？大切なところに近づいてきました。この「**信じる信仰**」というのは、ただ単に事実を認めることではないのです。つまり、イエスがメシヤだと認めることでは救われません。イエスが神であると認めることでも不十分なのです。このイエスが救世主、神であり、そして、私の罪を赦すことができるお方であることを信じて、彼に罪の赦しを求めるのです。それは同時に、どんな困難や迫害があっても今から神に対してすべてを捨てて従って行く決心でもあるのです。このように言えます。「神さま、私はこれまであなたを信じないだけでなく、あなたを無視しあなたに逆らい続けてきました。私はあなたに対して罪を犯し赦される資格のない者です。私は間違っていました。私は今このようにあなたに逆らう罪の生き方を止める決心をします。そして、私の罪を赦し救いを与えるために人としてこの世に生まれ、私の罪の身代わりとなって十字架に架かり、そして、死後三日後に肉体をもってよみがえられた救い主イエスを、私の神、私の主と信じてあなたに従う決心をします。これからどのような困難や苦しみがあるかもしれませんが、しかし、私はあなたに従って行きます。どうぞ、この罪人の私の罪を赦して約束された救いを与えてください」と。神が私たちに教えてくださる救いというものには、このお方に従って行くその従順の部分が要求されているのです。私たちは神の前に罪を犯していた、不従順だったのです。その私たちが罪を悔い改めるとき何をやるのでしょうか？神に対して従順であろうとするのです。そうでなければ悔い改めたことになりません。今までの生き方は間違っていました、私は本当に神に対して罪を犯しました、私は大変なことをした…、これは後悔です。悔い改めは正しい方向へと立ち返ることです。私は罪を悔い改めて、イエス・キリストを信じてこの方に従って行くと。

皆さん、聖書を見るとイエス・キリストを信じるというのは大変なことです。広い門から入るのではありません。狭い門から入るのです。人間にはできないけれど神がそのことをしてく下さるのです。だから、私たちは神を崇めるのです。私たちが自分の力で救いを得るのなら自分を誉め称えたいのです。けれども、神が私たちに救いへと導いてくださるのです。今、皆さんにもう一度確認しなければいけないことは、あなたの信仰が本物かどうかです。私たちの責任はどのようなメッセージを聞いたとしても、それはみことばが教えていることかどうかということに吟味しなければいけないということです。ベレヤのクリスチャンのように。どんなに立派な先生が話をしても、私たちが従わなければいけないのは神のおことばです。神が何と言われているのか、そこに立たなければいけないのです。もうすでに学んできた通りです。今、あなたが自分に問いかけなければいけないことは、私の信じた福音は聖書が教えている福音がどうかです。ただ天国に行きたいためにイエスを信じたのであれば、もう一度みことばに立ち返らなければいけないのです。聖書が教えている福音は、あなたはこれまでの神に逆らってきたその罪を悔い改めて、神の前に正しく歩み始める決心です。このお方にどんなことがあっても従って行くとする決心です。なぜなら、このお方は神だから、このお方は私たちに罪の赦しを与えてくれる唯一の神、救い主だからです。そして、このお方はすべてのものを造られた主権者なる神です。私たちはこのお方に従順に従って行く者として造られたのです。あなたの信仰は間違いありませんか？あなたは確実に救いをいただいておられますか？

みことばは言います。あなたがこのように心から悔い改めてイエスを信じ受け入れるなら、神はこのように祝福を与えてくださると。18節を見てください。(1)「**彼らの目を開いて**」：神は私たちの目を開いてくださって真理を分らせてくださるのです。(2)「**罪の赦しを得させ**」：私たちの罪を完全に永遠に赦してくださるのです。(3)「**聖なるものとされ**」：私たちが聖い罪赦された者にしてく下さる。そして、(4)「**御国を受け継がせる**」：神は私たちに永遠の天国を約束してく下さったのです。救世主であるイエスを信じることにより、自分では絶対にできなかったことを神がしてく下さったのです。神が信じる者を救ってくださるのです。悔い改めは罪から離れる決心であり、信仰はイエスに従って行く決心です。あなたはその聖書の教える恵みの福音を信じて、この救いをいただきましたか？それが今日あなたが自らに問いかけなければいけないことです。

私たちは次回、自分の信仰が本物かどうかどうすれば分かるのか、確認できるのか、そのことはパウロが教えてくれていますから、見て行きます。それを見ることによって、あなたの信仰が本物かどうか分かります。でも、それを聞かなくても、あなたの責任は神が言われたことに対して、主よ、確かにその通りです、私はあなたに罪を犯してきました、赦してください、私はあなたを信じます、あなたに従って行きますと、その選択をすることです。ここにおられるすべての愛する皆さんがこの救いから漏れることがないように、それが私の望みです。そのために、あなた自身がみことばに正しく応答してください。主よ、私はあなたについて行きます、どうぞ、私を救ってくださいと。そして、このすばらしい救いを確実にあなたのものにしていただきたいと思います、そのことを願います。